

学術年会開催にあたって

月見 泰博（学術年会長）

医薬品の研究開発は、多くの失敗の歴史を経て日々前進しています。中でも、非臨床（動物）での成績と臨床との間の乖離は依然として大きなものがあり、医薬品開発のあらゆるステージにおいてこの乖離を埋めるべく数多くの努力が為されてきています。

基礎と臨床を繋ぐトランスレーショナルリサーチは、新たなテクノロジーを取り込みながら日々発展を続けている分野です。今回、各分野における最新の知見も交えながらそれらの実態を共有しあうことで、近未来の創薬成功確率を向上させる一助になればと考えている次第です。

今回は、神奈川県藤沢市にある湘南アイパークにて初めて学術年会を開催いたします。

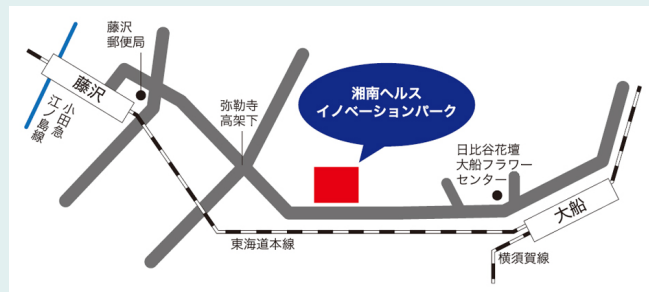
多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第31回 HAB 研究機構学術年会 組織委員

石田 誠一（崇城大学）
伊藤 晃成（千葉大学）
梅原 健（大塚製薬株式会社）
戎野 幸彦（Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社）
木内 祐二（昭和大学）
楠原 洋之（東京大学）
篠澤 忠紘（武田薬品工業株式会社）
長坂 泰久（アステラス製薬株式会社）
中島 美紀（金沢大学）
檜杖 昌則（ファイザー R&D 合同会社）
平林 英樹（武田薬品工業株式会社）
吉成 浩一（静岡県立大学）
渡邊 伸明（第一三共株式会社）

（敬称略・五十音順）

<会場へのアクセス>



湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）

〒251-8555 神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地1）

「大船」駅（JR 東海道本線 / JR 横須賀線）より、
バス（約20分）、タクシー（約10分）、徒歩（約35分）

「藤沢」駅（JR 東海道本線 / 小田急江ノ島線）より、
バス（約15分）、タクシー（約15分）、徒歩（約30分）

◆より詳しい案内は、「湘南アイパーク HP」をご覧ください。

<参加登録費>

（要旨集を含む）

HAB 研究機構正会員	10,000 円	（事前 8,000 円）
※ 賛助会員	10,000 円	（事前 8,000 円）
非会員	15,000 円	（事前 13,000 円）
学生	8,000 円	（事前 6,000 円）
【懇親会】	8,000 円	（事前 6,000 円）
※※ 関連学会会員	12,000 円	（事前 10,000 円）

※ 賛助枠一口につき1名様適応。それ以外は非会員扱いとなります。
※※ 協賛・後援団体の所属員を予定しております。

事前参加申込期限：2024年4月26日（金）

<お問い合わせ・お申込み先>

特定非営利活動法人 HAB 研究機構

〒272-8513
千葉県市川市菅野5-11-13 市川総合病院 角膜センター内
TEL：047-329-3563 FAX：047-329-3565
E-mail：secretariat@hab.or.jp URL：https://www.hab.or.jp

Non-profit organizations
Human & Animal Bridging Research Organization

第31回 HAB 研究機構学術年会

医薬品開発における トランスレーショナルリサーチ

～ヒト組織で繋ぐ基礎と臨床の架け橋～

< Second Circular >



学術年会長：月見 泰博

（あすか製薬株式会社）

学術年会特別委員長：木内 祐二（昭和大学）

日時：2024年6月13、14日（木、金）

会場：湘南アイパーク・講堂

協賛：日本薬物動態学会 日本薬理学会
日本臓器保存生物医学学会 日本再生医療学会
化学工学会バイオ部会 日本動物実験代替法学会
後援：日本毒性学会 日本臨床薬理学会
（順不同・予定を含む）

最新情報は、
右のQRコードから
ご確認ください。



2024年1月

第31回 HAB 研究機構 学術年会 – プログラム概要 –

6月13日(木)

9:00 ~ 開会の辞

9:10-11:10 シンポジウム I

ヒト試料と最先端分析・解析技術を活用した標的ならびにバイオマーカー探索および患者層別化への挑戦と課題

◆仮説生成に特化した AI 創薬

豊柴 博義 (株式会社 FRONTEO)

◆創薬研究におけるターゲットバリデーションと薬理評価

高橋 良昌 (帝人ファーマ株式会社)

◆オミクス解析と Quantitative Systems Pharmacology を活用したトランスレーショナル研究への挑戦

齋藤 隆太 (田辺三菱製薬株式会社)

◆自己免疫疾患ヒト皮膚検体を用いた統合的な空間オミクス解析 – 臨床検体の利活用による PoC 取得成功率の向上を目指して –

新田 克章 (アステラス製薬株式会社)

11:10-12:10 特別講演 I

『臨床検体から HTLV-1 関連疾患の病態を考える』

内丸 薫 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科)

12:20-13:20 ランチョンセミナー 1

13:40-14:40 特別講演 II

『State-of-the-art translational research in drug discovery and development』

Dr. Vesna Erakovic Haber (Selvita)

14:50-16:50 シンポジウム II

薬効薬理解析におけるトランスレーショナルリサーチ : モデル評価系を中心に

◆ヒト iPS 細胞由来腎間質細胞を用いた in vitro 線維化モデルの構築と抗線維化薬のスクリーニング

上谷 大介 (京都大学 iPS 細胞研究所湘南分室 T-CiRA)

◆がん領域におけるヒト腫瘍組織を活用した in vitro/ in vivo 試験モデルによる Translational Research

市川 克臣 (Crown Bioscience & MBL)

◆ヒト試料へのアクセスを活かした抗体医薬品の薬効薬理説明への試み

細沼 雅弘 (昭和大学医学部)

17:00-19:00 懇親会

6月14日(金)

9:00-11:00 シンポジウム III

ヒト組織を利用した ADME 研究最前線 ~ 摘出組織と iPS 細胞が織りなす創薬研究への競争と協奏 ~

◆ヒト摘出小腸陰窩由来細胞を利用した薬物動態・安全性評価方法の開発

楠原 洋之 (東京大学大学院薬学研究科)

◆再生医療技術を利用して作製した分化細胞はどの程度ヒト組織由来細胞と機能面で相関するのか?

~腸管上皮細胞や肝細胞を例に~

水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科)

◆ヒト摘出肝組織由来細胞を利用した薬物動態・安全性評価方法のための技術開発

中村 和昭 (国立成育医療研究センター)

◆iPS 細胞由来血液脳関門モデルを用いた創薬研究

西原 秀昭 (山口大学大学院医学系研究科)

11:00-12:00 特別講演 III

『バイオバンク試料・情報の創薬研究への利活用促進 東北大学東北メディカル・メガバンク機構の産学連携での取り組み』

野口 憲一 (東北メディカル・メガバンク機構)

12:00-13:00 ランチョンセミナー 2

13:00-14:00 一般発表 (ポスター)

14:00-15:00 一般発表 (オーラル)

15:00-17:00 シンポジウム IV

臨床サンプルを用いた安全性研究において Cutting edge technology をいかに応用するか?

◆臨床サンプルを用いた薬剤安全性評価の現状と今後の展望

木村 真弥 (武田薬品工業株式会社)

◆ヒト試料を用いた Idiosyncratic toxicity のメカニズム解析と予測への応用

白井 亨 (住友ファーマ株式会社)

◆ヒト iPS 細胞由来多臓器オルガノイドを用いた安全性研究

高田 智夫 (大阪大学大学院医学系研究科)

◆DNA 配列依存的な転写予測 AI の開発と遺伝的リスク解明への応用

小井土 大 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

17:00 ~ 閉会の辞

17:10 ~ 次期年会長挨拶

<ご案内>

懇親会

6月13日(木) 講演終了後 17:00 ~
会場: 湘南アイパーク講堂
年会 1 日目講演終了後に懇親会を開催いたします。
皆様、是非ご参加ください。

参加費: 8,000 円 (事前 6,000 円)

ランチョンセミナー

6月13日(木) 昼休憩時 12:20 - 13:20
6月14日(金) 昼休憩時 12:00 - 13:00

皆様、是非ご参加ください。

一般講演 (ポスター&オーラル)

6月14日(金) 13:00 - 15:00

年会 2 日目の昼食後に、一般講演 (ポスター & オーラル発表) を開催いたします。若手研究者・学生を対象に優秀発表賞を選出・授与しますので、奮ってご応募ください。



※敬称略

※演者、演題ならびに講演順、講演時間等は、変更になる場合がございます。